

ひかりのこ

10月園便り

認定こども園
聖ミエル幼稚園
2022年9月21日

月主題：みんなちがってみんないい

9月に入り、園庭が完成いたしました。一番のメインは「そらみち」。階段をのぼると、アップダウンのある道が続いています。

子どもたちはそろりそろり足を踏ん張って道を歩いていきます。その先は幼稚園のシンボルツリー「姫リンゴの木」をぐるりと囲んだクモの巣ネット。またまた子どもたちは網の目の間に足を落とさないように気を付けながら歩いていきます。もともと木登りの木に最適だった「姫リンゴの木」を登ることもできます。

このようにして坂を上ったり下ったり、バランスをとりながら歩いたり、日常生活ではなかなか使わない体の筋肉を動かします。

今回の園庭の設計は、全国で多くの園舎、園庭を設計している「時設計」さんをお願いいたしました。「そらみち」は福井県の業者さんが、船に遊具を載せて運んで来て、組み立ててくださいました。どちらも、園庭でたくさんの実績をお持ちの業者さんです。園舎も園庭も資材高騰の折、出来上がるまで不安でしたが、予定していたものはすべて出来上がりました。神様に感謝です。そして、長い間じっと我慢してくださった保護者の皆様、子どもたちに感謝です。

毎日子どもたちは園庭で遊ぶことを楽しみに登園しています。これからも神様と人に守られて、子どもたちがすくすく育ちますように。私たち職員は心を込めて一人一人の子どもたちを大切に慈しんで見守ることができるよう。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「死者を悼む」

英国のエリザベス女王が逝去され、ロンドンのウエストミンスターアビィで国葬が行われることになりました。

Abbeyとはビートルズのアルバム「アビーロード」のアビーですが、修道院のことで、国葬が行われるウエストミンスターアビィは、修道院の付属礼拝堂を指します。

テレビなどでは、複雑なので仕方なく「寺院」とっていますが、ミカエル教会が属する聖公会の総本山のような場所です。多くの国民が女王の死を悼んでいる姿があります。それを見るにつけ、愛する人の死を悼むことの大切さを考えさせられます。

死者を悼むことは、悲しむこととは違います。それなりのプロセスを経て、悲しみを表現し、また感謝して天国にお送りする一連の行為です。最近はいわゆる家族葬が大流行です。先日、ついに、超格安の家族葬のチラシを見て愕然としました。葬儀社は棺と骨壺を用意するくらいで、あとは何もなし。もちろん、お坊さんの読経もありません。無宗教といえは聞こえはいいですが、本当にこれで亡くなった人を心から悼み、お送りする心境になるのでしょうか。

死者を悼むというプロセスは、子どもにも貴重な人生経験となります。命の大切さとどう向き合うか、失われた命をどう受け止めるか、誰もが必ず経験することだからこそ、大切に考えたいと願います。

チャプレン 司祭 下澤 昌

